

令和 6 年度第 2 回小浜市地域公共交通会議

1 日 時 令和 7 年 3 月 2 6 日（水） 1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0

2 場 所 働く婦人の家 3 階 大会議室

3 出席者 《委員》 2 1 名、欠席 5 名

川本義海会長、野村徳夫副会長、大井幹夫委員、今井正美委員（代理：水野様）、
岩崎育巳委員（岩崎様）、北野進一委員、向平章浩委員、森健次郎委員、小林博之委員
植田祥彦委員（高鳥様）、小林正尚委員、加藤拓委員、竹本雅之委員、山田和義委員、
御子柴北斗委員、清水雅彦委員、川畑隆弘委員、岡本敏路委員、山下和彦委員、
中出博行委員（代理：中村様）、山口久範委員

<事務局>

小浜市新幹線・交通まちづくり課

4 議事次第

（1）開会

（2）議事

（協議事項①）

令和 7 年度の公共交通施策について

（報告事項②）

あいあいバス谷口バス停へのおおい町デマンドバス接続について

（報告事項③）

免許返納者への異動手段に関するアンケート調査結果について

（3）閉会

5 議事

(1) 開会

【会長挨拶】

本日は、今年度第2回目ということですが、前回夏に（第1回目の会議を）行いまして2回目でございます。

実は昨日、私自身、能登半島に行っておりまして、北陸信越運輸局のシンポジウムに参加しておりました。テーマが「能登の地域交通を考える」ということで被災された地域での公共交通の役割、今の課題と今後の展望について議論をして参りました。我々の会議では平常時のことを考えておりますが、いつ何時そういったこと（災害など）が起きるとも限りません。平常が動いているからこそ非常時が対応できるということがあると思いますので、そういったことは会議の中では議論できていないことかもしれませんが、非常時における公共交通をどうしていくのかということも議論していかないといけないと感じたところです。

また、広域連携の必要性についても議論しました。広範囲にわたって1つの自治体だけでやるのは無理がありますので、広域で仕組みを共有したり、資源を活用したりなど、そういったところまで考えて計画を作っておられるということでした。小浜市も小浜市の公共交通だけではなく、嶺南地域の中での役割というものもあるかと思っておりますので、そういった2段階のところでどうあるべきかということについても皆様から忌憚のないご意見をいただければと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

（協議事項①）

○令和7年度の公共交通施策について

【事務局】資料に沿って説明

【会長】

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

【委員】

前回の実証実験を受けて今回の実証を行うと思いますが、（前回の）アンケート結果で目的地としてスーパーなど買い物をする場所を設定していないのはなぜでしょうか。また、利用者は登録しておくタクシーに乗った際に利用者証を出せば半額料金として自動的に計算され、利用者から見ると、このカード（利用者証）さえ持っていれば安い料金でタクシー利用ができるというシンプルなシステムになっているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

料金精算のシステムについては、おっしゃられた内容で合っております。

また、もう1点の公共施設や通院できる場所に限ってということで、例えば小浜駅ですと小浜駅に行く二次交通の補完をしようと、今まではあいあいバスということでございます。対象者については75歳以上ということで、前回のアンケートの利用状況では、通院利用が多かったということでございます。これが、日々の買い物ということになると、かなり使用頻度が大きいのではないかと思います。ございまして、まずどういった方が使われるのか、また、アンケートも取りたいと思っておりますので、できれば買い物にも使いたいということであれば、このデータ、検証を基に検討してまいりたいと思います。今回については、通院や小浜駅との二次交通の利用ということで考えております。

【委員】

今後、データを基に買い物需要があった場合、行政の持出しだけでなく、お店側にも負担していただいてなるべく、ずっと続けられるようにしていただきたいと思います。

【委員】

対象者が75歳以上の市民ということですが、年齢で切るよりも免許返納者や免許を持っていないような交通弱者を入れた方がよいと思いました。

また、半額補助ではなく、同じ金額であれば利用料金の割合の補助とした方がよいのではないのでしょうか。先生（川本会長）のご意見をお伺いしたい。

【事務局】

我々としても、今回、実証実験を行うにあたって、なかなか人数を把握することが困難であろうということで、今回は75歳以上と制限をかけさせていただきました。只今ご意見がございましたので、元々免許を持っていない方は分かりませんが、免許を返した方は、ある程度把握できますので、それを基に財政状況を踏まえて、実際に実証を行うまでに詳しい内容を詰めていきたいと思っております。

【会長】

確かに20%や30%の補助率での支援ということであれば利用回数を増やせたりなどできるかもしれないが、ここは正直やってみないと分からないと思います。実証期間が6カ月間で設定されていますので、実証期間内に使う人はフルで使うだろうし、足りないと思う人もいるだろうし、これもアンケートの中の項目で聞くべきかなという話になると思います。まずは分かりやすく半分ということだと私は判断しています。

【会長】

半額補助ということだが、1円単位までの半額補助なんだろうか。

【事務局】

料金設定をとりあえずは100円止めということでさせていただいております。システムについては1円単位までの請求ができるかということと、交通事業者にも1円単位のメーター表示・精算かどうかということについて確認させていただきます。

【会長】

端数が調整できないようなら、利用者負担でなく、助成金額とした方がよいと思う。また、この程度の負担であればきっちり1円単位まで割るというよりも、何百何十円と切りよくした方がよいのではないかなと思うので、そのあたりも検討いただいた方がよいのではないかと思います。

【委員】

利用可能回数は上限で12回なのかということと、利用可能回数の12回というのは、ご本人さんはどう把握するのかということ、また、相乗りした場合のカウントの仕方を教えていただきたいです。

【事務局】

まず、利用可能回数についてですが、6カ月の間に12回を上限として自由に使っていただく。平均すると月2回の片道利用になるということで記載しております。

次に利用回数の把握についてですが、予約していただく際に、この制度を利用すると申し出ていただき、利用者証に記載のナンバーなどを申告いただくことで、利用者が何回利用したかは把握できるようにしたいと思っております。また、乗車時にもQRコードなどを活用して利用回数を把握できるようにし

たいと思っております。予約時点と乗車時において確認できると想定しています。

また、例2の利用についてですが、相乗りした場合、行きはAの助成利用、帰りはBの助成利用という形で各個人が登録していると仮定して、行き帰り、別々に各個人の助成を使っていただくということでご示しています。代表者が利用するというのではなく、それぞれが助成制度を使ってということになります。

【委員】

登録がない方との相乗りもできるのでしょうか。

【事務局】

相乗りしていただけます。その場合は、登録された方の助成利用ということで使っていただけます。

【委員】

予算の上限があると思いますので、色々制限をかけられていると思うが、割引率を例えば半額ではなく、1割程度にして利用期間をもう少し伸ばすとか、対象者を増やすとか、公共交通にかかる実証事業ということでやられるのであれば、もう少し幅広にやられた方がよいのではないのでしょうか。これだと福祉タクシーチケットに似ているなという印象なので、割引率を減らして、もう少し対象者を広げて、期間を広げて、目的地も広げた方がいいのではないのでしょうか。

【事務局】

なるべく長い期間で汎用性の高いもので行いたいということではありますが、1つは財政的な問題もございます。また、前回のデマンドタクシーの実証の際のアンケートの意見では、上限は500円までにしてほしいなどの意見もございました。タクシー利用は遠隔地の方にとっては、負担が大きいといったことや前回の実証では、乗合率が非常に低いといったこともありました。無理やり乗合率を上げるわけはありませんが、できるだけ、乗合で利用していただいた方が個人の負担も少なくてすみます。限られた資源（既存のタクシー）を利用しながら乗合をしていただくことで負担を減らすということも踏まえて内容を検討いたしました。運用前には、再度、ご意見を踏まえて精査させていただきたいと思います。

【会長】

今回、示された内容は決め打ちで変更できないのでしょうか。小浜市さんが予算をつけてやることで、できること、できないことがあるということが我々は見えてないので制限があるのなら、できないこともあると思いますがそのあたりはどうでしょうか。

【事務局】

限られた予算があるので、どこまでできるかは今後精査させていただきます。まるっきりこれで行くということではございません。そのために本日、皆様にご意見を伺っているところでございます。

【会長】

この実証が7年度後半となると、去年は公共交通会議を7月に開催しているので、この実証実験の前には、再度、交通会議で最終的な確認をということになると思います。

【委員】

予約の段階で自分が何回利用したか分かるのでしょうか。自分が使えると思って利用したが、利用回数をオーバーしていて助成の利用ができなかったという方が出てこないのでしょうか。

【事務局】

電話予約の際に本助成制度を利用するという宣誓をしていただく。宣誓後にカードに記載の番号等

をお答えいただくことで、利用回数が分かるような運用の仕方を現在詰めております。

【委員】

75歳の方が対象ということですが、独居老人の方などが申請行為をできない場合はどうしますか。

【事務局】

申請自体が難しいということであれば、地域の方、例えば区長さんなどにフォロー（代理申請）していただくといったこともあるのではないかと考えております。我々としては、なるべく多くの方に利用していただきたいので、お知らせの方法や申請方法についても十分周知できるようにしたいと思っております。

【委員】

今回の実証を経て、その後、どのような交通体系の見直しに繋がっていくのか、現時点で想定されている着地点みたいなイメージはありますか。

【事務局】

具体的にはこの実証実験を踏まえてからということになりますが、これまでデマンドタクシーというものをさせていただきました。しかしながら色々な課題が見えてきました。乗合率や事業者においては運転手の確保ということもございます。また、運行に際しての財政的負担ということがあります。これを持続的にできるのかということと非常に効率が悪いのではないかと結論に至っております。そういったことで、やはり利用者にとっても利用しやすい既存の異動手段としてタクシーを利用してはどうかということです。当然、あいあいバスの運行は続けていかなければいけないと思っており、あいあいバスを利用していただきながら、それを補完する形で、この助成を使っていいただければと思います。

また、タクシーの予約がとれないようなマッチング率が悪い時間帯について、こういった手段があるのかどうかを今後考えなければなりません。タクシーとのマッチング率が悪い時間帯については、小浜市議会からもライドシェアを考えてはどうかとの提案もあったところですので、そういったことも1つ視野に入るのではないかと考えております。既存のタクシー事業とのすみ分けについても本実証実験の結果を踏まえて交通事業者様と協議していきたいと思っております。また、持続可能なものであるかどうかということを考えながら今後進めていきたいと思っております。

【委員】

仕組み自体、マイナンバーカードと連携していくのも悪くないと思うので、そういったことも含めて広く検討いただきたいと思います。1つの考え方として。

【事務局】

全国ではマイナンバーカードを使ったシステムを導入しているところもあります。インシャルコストはかかると思いますが、長い目で見た場合の今後の使い方としてマイナンバーカードを使ったシステム導入というものも選択肢の1つとして検証していきたいと思っております。

本日、皆様からいただいた意見を参考に令和7年度中の実施に向けて再度検討いたします。また、実施前に再度、皆様に実施内容を説明させていただきます。

(報告事項①)

○あいあいバス谷口バス停へのおおい町デマンドバス接続について

【おおい町様】 資料に沿って説明

【会長】

ここには待合室みたいなものはあるのでしょうか。

【おおい町様】

谷口バス停には待合室みたいなものはないです。

【委員】

利用者からは直接小浜市内まで行ってほしいなど利用者からは色々な意見があると思います。アンケートをとられるということですので、そういうご意見や流星号も通ると思います、そのあたりの意見や利用者の状況などを踏まえて今後に繋げていただけるとよりよいものになると思います。おおい町さんと小浜市さん以外にも、広域のコミバスという議論は色んなところでおこっていますので、そういったところにも参考にしていきたいですし、また一緒にやらせていただきたいと思いますので宜しくお願いします。

【おおい町様】

実証期間を終えましてアンケート等によりまして課題やニーズなどを把握し、よりよいものにしていきたいと思います。

【会長】

利用者はどれだけ見込まれていますか。

【おおい町様】

デマンドバスを利用している方は現在、200名程いますが、そのうち何名が利用されるかはわからないんですけれども、アンケート等を利用しながら把握していきたいと思います。

(報告事項②)

○免許返納者への異動手段に関するアンケート調査結果について

【会長】 口頭にて報告 ※口頭報告のため、主な報告内容を以下に記載

この度、小浜市様の協力を得て、免許返納者へのアンケート調査を行いました。対象を500名として実施しました。回収率は6割程になりそうです。

単純集計の報告をさせていただきます。

まず、男女比ですが、2：3の割合で女性の方が多く返ってきています。次に年齢ですが、60から69歳の方は4名、70から74歳が12名とそんなに多くないんですけれども、75歳から79歳の方が120名程と結構多いです。そして80から84歳が12名、85から90歳が90名近くいらっしゃる。(グラフにすると)山が2つあるような形になっています。

次に暮らし方ですが、一番多いのが本人と本人以外の同居者、恐らくお子さん世代と一緒に住んでいらっしゃる方が半分程、そして次に多いのが、夫婦の2人暮らしとなっております。

免許返納の理由についても複数回答で聞いておりまして、一番多かったのが、交通事故を起こさないか不安だからという方が122名、健康上の理由を挙げる方が84名、家族に勧められて免許を返すという方が78名いらっしゃいます。また、経済的な理由やライフスタイルの変化などの回答もありましたが、数は多くありませんでした。

あと、免許返納のきっかけというところですが、一番多かったのが、自ら判断してという方が約半分程度、また、3分の1の方が家族からの助言ということで、この2つが中心の回答になっています。

免許返納した後にどう移動しているのかという質問には、3分の2の方約200名の方が家族の送迎と回答しています。そして3分の1の方約100名がタクシーと回答しています。3人のうち1人はタクシー利用をしているということでした。あとは、公共交通のバスや電車を利用していると答えた方が70名程でした。

免許返納をしたあとに公共交通の利用はどうかという問に、(家族の送迎があるので)公共交通は使っていないという方が半分以上います。使われている方を見ると、毎日使っている方は4名しかいません。週に1回利用している方が17名、2週間に1回12名、月に1回28名ということで、そんなに多くありません。全て公共交通でまかなうということは困難だということがここから言えるのではないかと思います。

公共交通を利用して不便に感じるかという問については、使う人が中心で考えるとすると、利用できる便が少ないという回答が80名、時刻表に合わせて行動する必要があるという回答が60名近くいます。ただ、一方でデマンドよりも定期的に走っている方がいいという方もいらっしゃいます。決まった時間で安心して乗れるということで、予約しないと来ないというものよりもこちらの方がよいという方もいらっしゃる。これは、どちらにするかではなくて、両方いると思います。そういうもの(定時定路線)を残しつつ、あとは自在に動けるバスなどのみ組み合わせ型というのを探していく必要があるのかなと思います。

あとは、料金についてですが、タクシー利用を考えた時にということになるとと思いますが、タクシー利用で困ることは何ですかということで聞いています。一番多いのが料金が高い174名、次に多いのが、予約の手間ということで55名、あとは待機時間などもありますがそんなに多くはないです。やはり料金の面です。今回のタクシーの利用助成事業について、半額からもう少し割り引いてもいいのではないかと思います。そのあたりをどうするかだと思います。前回デマンドバスの実証実験を行った際のアンケートでも500円までだったというものが1つラインとしてあったと思います。タクシーの場合は利便性を考えた時にはということで、それよりも高くできると思うが、それがどのあたりまで考えられるのかということがあると思います。

また、免許返納後の移動について、満足・不満足で聞いていますが、普通という回答が意外と多く123名、おそらく家族が対応されていて、なんとかなっているということかなと思います。また、家族も免許返納を勧めているということで家族が協力的になっているという可能性があります。次に多いのが不満で72名、非常に不満というのが48名、満足が23名、非常に満足が8名ということで、30名近くは満足の方に振れています。

また、今後の公共交通サービスについてということでいくつか聞いています。その中で一番高かったのは107名で高齢者向けの移動支援サービスの提供。抽象的ですが、高齢者向けに考えられたものを強く望まれています。そして96名で多いのが、乗車料金の割引補助。まさに今回やるものがそれに合致するかなと思います。あと60名近くあるのが、バスの等間隔運行。1時間に1本あればいいということだと思いますが、なかなかそうはならないというところで、難しいかなと思います。同じく60名で交通機会・アクセスの改善。バス停が近いなども影響してくるのかなと思います。

あとは、自動運転など新しい技術の導入について、どうでしょうということで期待を聞いています。一

番多かったのが、期待しているということで87名、不安を感じるという回答が69名、非常に期待しているという回答も30名近くありました。

外出頻度については、月に数回というのが26名、週1、2回という方が18名、ほとんど外出しないという方も10数名いらっしゃいます。

さらに、外出の目的ですが、通院が多く55名、買い物が49名ということで、こういったところでサポートを考えるのは間違っていないですし、皆さんにとっての不可欠なものということでしっかりターゲットを絞ってサービスを考えていくことが大事かなと思います。

最後に、高齢者免許返納者へのサポートタクシーという制度ができたということで、それについて知っていますかという問について、知っている方は7名のみ。ほとんど知らないという結果でした。

今回は口頭での報告となりましたが、次回は紙ベースでグラフなどもつけながら説明できればと思います。

【会長】

では、その他ということで事務局から何かありますか。

【事務局】

特にありません。

【会長】

他の皆様からご意見、ご質問はございませんか。それでは、本日の議事についてはすべて終了とさせていただきます。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

閉会

【事務局】

川本会長ありがとうございました。また、委員の皆様につきましては、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

それでは、これで令和6年度第2回小浜市地域公共交通会議を終了させていただきます。誠にありがとうございました。

以上